



2010年3月31日

堀野哲司 様

社団法人日本建築家協会関東甲信越支部
支部長 伊平則夫
保存問題委員会委員長 和田昇三
中野地域会代表 小西敏正

「虚白庵」保存についての要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴殿におかれましては、日頃より中野の地域・文化を支えて下さっていることに深く敬意を表します。

さて、1970年に建てられた旧白井晟一郎が「虚白庵」という名称によって中野区江原町に現存していることは、建築関係者の間にあつては、周知の事実であります。この建物は、個人住宅であるが故に、実際に接したものは極めて少数であったものと思われるものの、白井晟一という希有な建築家の代表作の一つとして写真集や書籍の形で広く紹介されており、多くの建築家や、建築を愛する市民の記憶に、白井の個性が最も強く顕れた象徴的作品として、深く刻み込まれております。

当協会は、貴殿が所有される虚白庵が次代の日本の文化のために是非とも継承されるべき重要な建築物であると確信しております。

維持保存のためには、大変な労力と大きな経済的負担が掛かることは想像に難くありません。経済状況が大きく落ち込んでいる現在、その存続に伴う困難を私共も良く理解しているつもりでおります。しかしながら、一度失われた建物は二度と取り返すことができません。現在我が国においては、経済的な事情など様々な理由で、近代の貴重な建築が次々と失われております。多様化の時代といわれながら、町には古い建物が無くなり画一的で奥行きのない都市に変わりつつあります。そしてこれは何としてでも回復したい事態です。

様々な困難があると考えられますが、建築文化、地域の文化強いては日本の文化に貢献をお願いできないでしょうか。ぜひ、虚白庵が次の世代へと、保存され引き継がれますよう、ここに ご協力をお願いする次第です。

社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同保存問題委員会並びに同中野地域会としても、できる限りの様々な協力をさせて頂くことを申し添えます。

敬具